

- 災害対応の現場で様々な情報を収集し、検討に資するよう整理するには、膨大な労力と技術が必要
- 政府の現地対策本部等においても十分な体制ではなく、民間のノウハウ活用も不十分
- 災害情報ハブ推進チームメンバーを中心に、官民の情報収集・整理を行うチームを形成
- 今年度中にチームを形成、来年度から試行的に訓練等を実施し、役割や位置づけ、課題等を精査

現時点では内閣府の他、防災科学技術研究所をはじめ、総勢8名程度の有志によるチームを検討中。チームの試行にあたり各主体と以下の内容について調整する。

○民間団体・事業者

- ・SIP4Dの作業や、情報のデータ化作業、各社が保有する情報の提供等

○内閣府

- ・全体調整役の派遣

科学技術担当、防災担当からそれぞれ調整役として現地入りする。

○地方公共団体

- ・作業スペース、作業機、電源

対策本部若しくはその付近に8名程度が作業可能なスペースの貸与

同様に、作業用PCとプリンターなどが使用できるよう電源の手配をする

参加者や各々の詳細な役割分担、チーム派遣のトリガー、訓練内容等も含めた全体を3月中に決定
なお、試行期間中においては、作業用PC、食事・宿の手配、費用負担は各々で対応する